

# 末梢静脈栄養輸液がカテーテル由来血流感染に与える影響と対策に関する研究 のお知らせ

帝京大学ちば総合医療センターでは以下の研究を行います。

本研究は、倫理委員会の審査を受け承認された後に、関連の研究倫理指針に従って実施されるものです。

研究期間：2024年11月12日～2028年3月31日

## 〔研究課題〕

院内におけるメチシリン耐性ブドウ球菌属によるカテーテル由来血流感染に対する末梢静脈栄養輸液の影響と対策

## 〔研究目的〕

末梢静脈栄養輸液(PPN:Peripheral Parenteral Nutrition) (ビーフリードとパレプラス)とブドウ球菌属の増殖関係は、in vitroにおいてよく知られています。当院ではPPNの採用をビーフリードからパレプラスに変更後よりメチシリン耐性ブドウ球菌属(MRS:Methicillin-Resistant Staphylococcus)によるカテーテル由来血流感染(CRBSI: catheter related bloodstream infection)が多く確認されています。そのためパレプラスとビーフリードでMRSによるCRBSI発生率に違いについて調査します。また、当院では末梢静脈カテーテルを挿入時の消毒をポビドンヨード製剤ではなく1%クロルヘキシジンアルコール製剤へ変更しました。CRBSI発生予防として1%クロルヘキシジンアルコール製剤への変更が有用であったのか調査します。

## 〔研究意義〕

院内におけるMRSによるCRBSI発生がPPNの種類によるものか明らかになると共にCRBSIの対策が明確になることでCRBSIの発生を減少させることに貢献することが出来ます。

## 〔対象・研究方法〕

対象患者: 2013年4月～2015年3月までにビーフリードを使用した患者さん、2015年4月～2017年3月までにパレプラスを使用した患者さん、2022年4月～2024年3月までにパレプラスを使用した患者さんです。

研究方法: 患者さんの年齢、性別、入院した診療科、疾患、PPNの投与期間、投与時間、CRBSIの有無、使用した消毒薬、血液培養結果について後方視的に調査を行い、kruskal-Wallis 検定、 $\chi^2$  検定を用い解析を行います。

## 〔研究機関名〕

帝京大学ちば総合医療センター

## 〔個人情報の取り扱い〕

収集した試料・情報は、氏名等の特定の個人を識別することができる記述を削除し、代わりに研究用の登録番号を付与し、記録媒体により城西国際大学薬学部製剤物性解析学研究室へ提供します。対照表は、当院の研究責任者が保管・管理します。

個人を同定できない形に加工したうえで情報を扱い、研究発表も匿名で行います。個人情報が病院外に持ち出されることはありません。

研究終了後、電子化したデータセット等を倫理委員会事務局に提出し、帝京大学臨床研究センターにて10年保管の後に廃棄する。

対象となる患者様で、ご自身の検査結果などの研究への使用をご承諾いただけない場合や、研究についてより詳しい内容をお知りになりたい場合は、下記の問い合わせ先までご連絡下さい。

ご協力よろしくお願い申し上げます。

問い合わせ先

研究責任者: 氏名 飯塚 雄次

職名 部長

研究分担者:氏名 三浦 幹剛 職名 係長  
所属: 帝京大学ちば総合医療センター 薬剤部。  
住所: 千葉県市原市姉崎 3426-3 TEL:0436-62-1211(代表) [内線 5199]